



平成 18年 3月期

第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 18年 2月 13日

上 場 会 社 名

電気化学工業株式会社

(コード番号 : 4061 東証第1部)

(URL <http://www.denka.co.jp>)

問合せ先 代表者役職・氏名

代表取締役社長

晝間 敏 男

責任者役職・氏名

取締役経理部長

南 井 宏 二

TEL (03) 5290 - 5512

1. 四半期業績の概況の作成に係る事項

- ①会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
減価償却費や法人税等の計上等、一部簡便的な方法を採用しております。
- ②最近連結会計年度からの会計処理方法の変更の有無 : 無
- ③連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成18年3月期第3四半期業績の概況 (平成 17年 4月 1日 ~ 平成 17年 12月 31日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年 3月期第3 四半期	230,422	10.6	20,201	3.1	18,769	10.6	12,076	17.3
17年 3月期第3 四半期	208,391	11.2	19,593	—	16,964	—	10,296	—
(参考) 17年3月期	280,033		25,585		21,897		13,587	

	1 株 当 た り 四 半 期 (当期) 純利益	潜在株式調整後 1 株 当 た り 四 半 期 (当期) 純利益
	円 銭	円 銭
18年 3月期第3 四半期	24.57	—
17年 3月期第3 四半期	21.14	—
(参考) 17年3月期	27.70	—

- (注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年第3四半期増減率であります。
2. 営業利益、経常利益、四半期 (当期) 純利益は平成17年3月期第1四半期から開示を始めたため、平成17年3月期第3四半期の対前年第3四半期増減率は記載しておりません。

(2) 事業の種類別売上高

	18年3月期 第3 四半期	17年3月期 第3 四半期	(参考) 17年3月期
	百万円	百万円	百万円
有機系素材事業	100,806	86,011	118,507
無機系素材事業	37,336	35,255	46,681
電子材料事業	24,339	22,389	29,770
機能・加工製品事業	43,521	44,285	56,411
その他事業	24,417	20,448	28,662
全社計	230,422	208,391	280,033

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期のがわが国経済は、企業収益改善に伴う民間設備投資の増加や個人消費の持ち直しが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。原油価格の高騰や石化系汎用製品の市況が中国の一時的な買い控え等により軟化するなど、景気の先行きに対する不透明感が高まっております。

このような状況のもと、当社グループは業容の拡大と収益の確保に努めました結果、当第3四半期の売上高は230,422百万円 (前年同期比10.6%増)、営業利益は20,201百万円 (前年同期比3.1%増) となりました。また、持分法適用会社の収支改善に伴う投資損益の改善や有利子負債の圧縮による金利負担の低減などにより、経常利益は18,769百万円 (前年同期比10.6%増)、当四半期純利益は12,076百万円 (前年同期比17.3%増) となりました。

有機系素材事業では、スチレンモノマーの輸出は、海外市況の軟化により販売価格は下落しましたが、販売数量が増加し増収となりました。子会社デンカシンガポールP.L.のポリスチレン樹脂は堅調に推移いたしました。機能性樹脂は国内外とも、特殊樹脂“クリアレン”を中心に販売数量が増加し増収となりました。クロロプレングムは、自動車関連用途や接着剤用途を中心に国内外ともに販売数量が増加するとともに販売価格が上昇し増収となりました。

無機系素材事業では、カーバイドは販売数量が増加し増収となりました。また、セメントは民間需要が堅調に推移したことに加え、主要販売地区である新潟地区での災害復興需要などにより販売数量が増加し増収となりました。

電子材料事業では、期初に電子機器関連製品の在庫調整の影響が若干ありましたが、輸出を中心に販売数量が増加し、電子部材、電子包材、機能性セラミックスともに増収となりました。

機能・加工製品事業では、包装資材はOPS（二軸延伸ポリスチレンシート）原反とデンカポリマー株式会社のOPS加工品は増収となりました。医薬については、関節機能改善剤（高分子ヒアルロン酸製剤）“スベニール”は順調に販売数量が増加しましたが、デンカ生研株式会社は主力製品であるインフルエンザワクチンの一部が国家検定不合格となり減収となりました。また、建築資材は農・土木用途向けのコルゲート管等の販売数量が減少し減収となりました。

その他の事業ではエンジニアリング子会社の受注が好調に増加しました。

### 3. 平成18年3月期の業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

#### (1) 連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	304,000	24,000	15,000
今回修正予想 (B)	303,000	23,000	15,000
増減額 (B-A)	△1,000	△1,000	0
増減率 (%)	△0.3	△4.2	0.0
(参考) 前期実績 (平成17年3月期)	280,033	21,897	13,587

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 30円52銭

#### (2) 個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	232,000	19,500	12,000
今回修正予想 (B)	229,000	18,500	12,000
増減額 (B-A)	△3,000	△1,000	0
増減率 (%)	△1.3	△5.1	0.0
(参考) 前期実績 (平成17年3月期)	212,092	17,220	10,752

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 24円42銭

#### [業績予想に関する定性的情報等]

第3四半期の業績は前年同期に比べれば増収増益となっておりますが、石化系汎用製品の海外市況の軟化や原油価格の上昇等の影響により想定していた水準を若干下回る結果となっております。このため平成17年11月14日に発表いたしました通期の連結業績予想並びに個別業績予想を上記のとおり変更いたしました。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。